

科名 外科
 対象疾患名 切除不能な肝細胞癌
 プロトコール名 BEV+テセントリク

Rp	形態	ルート	薬品名	投与量	時刻・コメント	1	...	21
1	点滴注	メイン	生食	500mL	ルートキープ	↓		
2	点滴注	側管①	テセントリク	1200mg	医師の指示通り	↓		
			生食	250mL				
3	点滴注	側管②	アバステン	15mg/kg	医師の指示通り	↓		
			生食	100mL				

★1クール=21日

～MEMO～

催吐レベル2(10%以上30%未満)

Child-PughクラスAを対象とする。

＜テセントリク＞

投与速度:初回60分,忍容性良好であれば2回目以降30分まで短縮可

本剤作用機序により、過度の免疫反応による副作用が現れることがある。発現した事象に応じた専門医と連携すること。

特に注意を要する副作用:間質性肺疾患、大腸炎、重度の下痢、肝炎、神経障害、副腎障害、重度の皮膚障害

infusion reaction、重症筋無力症、筋炎、1型糖尿病、甲状腺機能障害、腎障害、脳炎、静脈血栓症

インラインフィルター(0.2または0.22ミクロン)を使用し、投与前後に生食でフラッシュする。

＜アバステン＞

創傷治癒遅延の作用により術後28日以内の投与不可

投与速度:初回90分,忍容性良好であれば60分,30分まで短縮可

投与期間中は投与回数が増えるほど高血圧の出現頻度が高くなるため定期的に血圧を測定すること。